

研究タイトル：

近世怪談の研究



| | | | |
|-----------------|--|---------|--|
| 氏名： | 門脇 大 / Kadowaki Dai | E-mail： | kadowaki-d@t.kagawa-nct.ac.jp |
| 職名： | 講師 | 学位： | 博士(文学) |
| 所属学会・協会： | 日本近世文学会, 日本文学協会, 鈴屋学会 | | |
| キーワード： | 日本文学, 日本近世文学, 怪談, 心学, 弁惑物, 化物, 妖怪, 怪異 | | |
| 技術相談 提供可能技術： | <ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代の書物を中心とした和本の取り扱い・読解 ・日本の怪異文芸全般の読解・鑑賞 | | |

研究内容： 近世怪談の研究

日本近世文学を主な研究対象として、特に怪談の研究を行っています。江戸怪談を見渡してみると、そこには現代の怪談に通じるものが少なくありません。近世怪談の研究を通して、現代に生きる私たちに通底する心性や文化のありようを明らかにしたいと考えています。

ひとくちに江戸時代といっても、およそ260年も続いており、身分や地域によって大きく異なる文化圏の人々がそれぞれの文化を形成して互いに影響しあっています。一般的にイメージされるような画一的な江戸文化なるものは、江戸時代のごく一部をクローズアップしたものにすぎません。近世怪談に関しても事情は似通っています。つまり、ひとつの怪談が発生して、様々な分野から影響を受けて変容を繰り返しながら受け継がれてゆきます。そして、それらを研究しようとする際に、ただ怪談を検証するだけでは、木を見て森を見ずといったこととなります。このような事情をふまえて、江戸時代初期から幕末・明治期までの怪談と、それらと関わりの深い宗教や学問、広く文化一般を対象にして研究を進めています。さらに、その流れは現代にまで続いているため、近現代の怪異文芸にも目を配っています。

これまでの自身の研究は、江戸文化が成熟して明治時代へと推移してゆく18・19世紀を中心としていました。江戸文化が熟成された時期でもあって、怪異文芸も多様な展開を遂げた時代です。前代から続くような幽霊話はもちろんのこと、仏教・儒教・神道といった宗教や諸学問の影響を受けた理知的な怪談も目を引くようになります。また、18世紀中頃から始まった通俗道徳を説く石門心学の動向も注目されます。こういった宗教や学問、庶民教化運動などの文化事象と怪異文芸との影響関係を考察してゆくことで、当時の文化の実態や人々のありようが見えてきます。そして、それらは現代の文化や心性とつながっているわけで、今を生きる私たちの生活や思想を探求することにもなります。

今後の研究では、これまでの研究をふまえたうえで、さらに遡った時期、つまり室町時代末から江戸時代初期の怪談と諸文化との関係に着目して、その変遷の過程を明らかにすることを目指しています。また、各地に現代まで伝承されている様々な怪談と、その遺物に関する研究もさらに進めてきたいと考えています。

提供可能な設備・機器：

| 名称・型番(メーカー) | |
|-------------|--|
| | |
| | |
| | |
| | |